



前略 いつもお世話になっております、今月号の事務所だよりをお届けしますので、ご査収下さいますようお願い申し上げます。

今月は金利について考えてみました

日本の政策金利(一昔前の公定歩合)は何十年も低いまです。

日本国債10年の利回りも、米国や欧州その他の外国に比べると一桁違います。まさに雀の涙

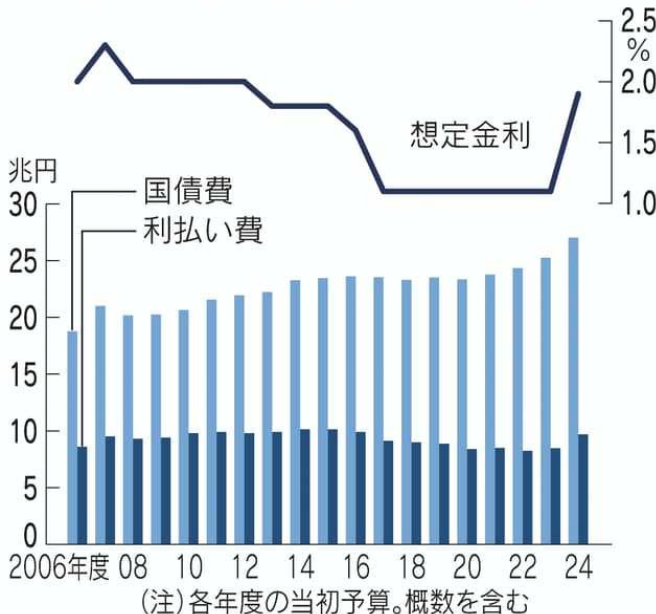
しかし、この数カ月少しづつ日本の低金利にも変化が出て来ましたが、先進国の中で日本のみが金利のない世界には居続けられないのかもしれない。



日銀 植田総裁会見 チャレンジング発言の意味はわからないままでしたが、緩和は維持。日銀は、12月19日まで開いた金融政策決定会合で、大規模な金融緩和策を維持することを決めました。市場では、日銀が早期に金融政策の正常化に向けて動くのではないかと観測も出ていましたが、いまの金融緩和策を粘り強く続ける必要があると判断しました。

しかし政府の財政政策には「金利のある世界」が戻つつあると思います。年末に発表した2024年度当初予算案では想定する国債の元利払い費(国債費)の想定金利を、23年度まで7年間続いた1.1%から1.9%に引き上げました。利払い費が増えれば自由に使える予算を圧迫します。想定金利の引き上げは日銀が06年にゼロ金利を解除した後に編成した07年度予算以来、17年ぶりだそうです。

2024年度は想定金利を引き上げた



個人向け国債



「新窓販国債10年」11月債 発行条件

令和5年

名称及び記号
利付国庫債券(10年)(第372回)
募集期間
令和5年11月8日～11月29日
表面利率(注)
年0.8%(税引後) 年0.637480%
応募者利回り(注)
年0.866%(税引後) 年0.703%
募集の価格
額面金額100円につき99円40銭
申込み単位
額面金額で最低5万円から5万円単位
1回の申込み当たりの上限額
額面金額で3億円

2023年11月の初めには、日銀の金融緩和停止?を先取りしたのでしょうか、日本国債10年の金利が0.955%にまで急騰しました。それを受けてか新窓販国債10年の金利(10年の定期預金のようなもの)も0.866%と忘れかけた高い金利を出しました。

この秋10月に日銀も10年物国債の指し値オペ(公開市場操作)の運用を見直し、長期金利の事実上の上限だった1%を「めど」としながらも、一定程度超えることを容認する、としていました。

2024年からは、日本の金利も徐々に上がりそうですね、「新NISA制度」が始まり景気・株価・金利の動向が気になります。